

保健体育科学習指導案

指導者 高橋 康 祐

1 日 時 令和元年10月8日(火) 5校時

2 学 級 1年5組 男子16名 女子15名 合計31名 西校舎1階体育館

3 主 題 単元名 E 球技 イ ネット型 バレーボール

4 主題について

本単元は学習指導要領では【E 球技 イ ネット型】に位置づけられており、ここでは「ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防すること。」となっている。また、系統表においては第1学年及び第2学年においては「ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所を巡る攻防をする」、第3学年では「役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をする。」となっている。

ここでバレーボールの特徴を考えるとネットを挟んで得点を競うスポーツであるが「ゴール型」の種目等に比べると、自己のミスが直ぐに相手の得点に繋がり、自分の守備範囲のボールは他の仲間がカバーすることが難しい場合がある。またゲームのなかでは、相手の弱い部分や一度ミスしたところを攻撃する場面も見られる。そこで苦手意識を持つ生徒をつくらず、ラリーを続けることを大切にして「楽しさ」や「参加したくなる」様な授業の展開を心掛けていきたい。

生徒は、小学校ではパスなどを緩和した教材で、ルールを工夫したりして簡易化されたゲームなどに取り組んでいる。中学1学年及び2学年では、基本的な技能と仲間との連携したゲームが展開できるように進めていきたい。そのために、正規のゲームが行えるよう段階的に指導し、ルールやネット、ボールの工夫等をしながら学習を進めていきたい。

前時までにパスやレシーブの基本であるオーバーハンドパス、アンダーハンドパスを学習しており、本時はそのパスをより確実なものにしながら、適切に使い分けながらボールをコントロールしてパスを繋げ、その過程で自分たちのつまづきや、出来映えを伝えあいながら、これまで学習をもとにアドバイス等を行い、互いに高めあいながら主体的・対話的な学びを深めたい。

5 本時の達成目標

ボールの状況に応じて、オーバー・アンダーを使い分け、パスをつなぐことができる。

6 評価場面での生徒の様子

【技能】

おおむね満足 B	十分満足 A
ボールの状況に応じてアンダーハンドパス、オーバーハンドパスを適切に活用できる。	ボールの状況に応じてアンダーハンドパス、オーバーハンドパスを適切に活用し、相手の取りやすい位置にコントロールできる。

7 振り返りの場面での生徒の記述例

アンダーハンドパス、オーバーハンドパスを使い分けることが出来た。ボールをコントロールしてパスすることは難しいので更に頑張りたい。

8 本時の展開

段階	学習活動	指導上の留意点	
		評価の観点・方法	◆教材・教具
導入 15分	1 体操 ランニング 挨拶 2 パスの基本動作を練習する。 3 学習課題を把握する。	よいパスを確認 ・構え ・ステップ ・インパクト ・フォロースルー 前時までのつまずき ・落下点 ・からだ全体を使う など	◆ホワイトボード
展開 30分	【主体的】 判断よくパスを選択することで正確なパスが出来ることを確認する。 パスをつなぐためにどうするか。		
	第1ステップ 4 1対1でのパス ・一方が投げて既習のパスを正確に行う。 ・互いにパスを続ける(対人パス)。	4 オーバーハンドパス, アンダーハンドパスを正確に行う。はじめはキャッチで行う(以下難しいボールはキャッチも可として意欲をもたせる)。	◆資料集
	第2ステップ 5 1対2でのパス(2回以内返す) ・1の生徒はボールを投げる。 ・2の生徒は互いに声掛けをしながら, どちらがパスするか, どんなパスでボールをつなぐことができるか。	5 【思考判断】 ボール操作や改善についてのポイントを発見している。	
	ラストステップ 6 2対2でのパス(2回以内で返す卓球フェンス使用) ・互いに味方でパスを続けるゲーム最後はキャッチなしで行う。 ・相手のいないところを狙ったパスゲームを行う(ローテーションをしながらチームを変えて行う)。	6 【技能】 パスをつなぐことができる(観察) A: ボールの状況に応じてアンダーハンドパス, オーバーハンドパスを適切に活用できる。 C: 技術とポイントを支援する。	
	7 本時のまとめを行う。 8 整理体操	7 生徒の発表などから頑張りを認め, 更に精度を高めていくことを確認する。 8 ストレッチなど。	
終末 5分	9 学習活動を振り返る(個人)。	9 自己評価はA~Dとするが, 記述で本時の学習で気付いたことや参考になったアドバイス, その他新たに浮かんだ疑問点を振り返らせる。	◆振り返りシート

9 指導と評価の計画

1年 保健体育	単元名 E 球技 イ ネット型 バレーボール	総時間 12時間扱い
単元の目標		
<p>(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開すること。 イ ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。(知識及び技能)</p> <p>(2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。(思考力、判断力、表現力等)</p> <p>(3) 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ること。(学びに向かう力、人間性)</p>		
時	主な学習活動	おおむね満足 (B)
1 ～ 3	オリエンテーション 基本のパス (オーバーハンドパス・アンダーハンドパス)	知 基本のパスの名称と、それらを身に着けるためのポイントを理解している。 技 相手が操作しやすい位置にボールをつなぐことができる。
4 (本時)	オーバーハンドパス・アンダーハンドパスを適切に使いわけ、ボールをつなぐ	技 ボールの状況に応じてアンダーハンドパス、オーバーハンドパスを適切に活用できる。 思 仲間の課題や出来栄を伝えている。
5 ～ 6	パスによるゲームと基本のパス	思 ゲームの反省点に気付いている。
7	アンダーハンドサーブ サーブレシーブ	知 サーブとレシーブの方法を理解している。 技 ボールの中心付近を捉えることができる。
8	サーブを用いた練習ゲーム	知 ゲームの手順やルールがわかる。 技 相手側のコートに空いた場所にボールを返すことができる。
9 ～ 11	ゲーム	技 ゲームの中で、ボールの状況に応じてアンダーハンドパス、オーバーハンドパスを適切に活用できる。
12	単元の振り返り	知 授業で学んだバレーの基礎的な技術を理解している。 思 自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。